

3 自動車排出ガス測定局における状況

自動車排出ガス測定局は、大分市が大分駅前到大分中央測定局を設置していたが、12年度から大分市宮崎に宮崎測定局が新設され、県内では現在この2測定局において、窒素酸化物、一酸化炭素、浮遊粒子状物質及び炭化水素の監視が行われている。

(1) 窒素酸化物

平成13年度における年平均値は、中央測定局で一酸化窒素 0.065ppm、二酸化窒素 0.036ppm、宮崎局で一酸化窒素 0.052ppm、二酸化窒素 0.033ppm であった。

過去10年間の一酸化窒素及び二酸化窒素の経年変化を図1-3-14に示す(平成4年度～11年度は中央測定局の測定結果、12・13年度は2測定局の平均値)。

一酸化窒素、二酸化窒素ともに、全体としてほぼ横ばいである。

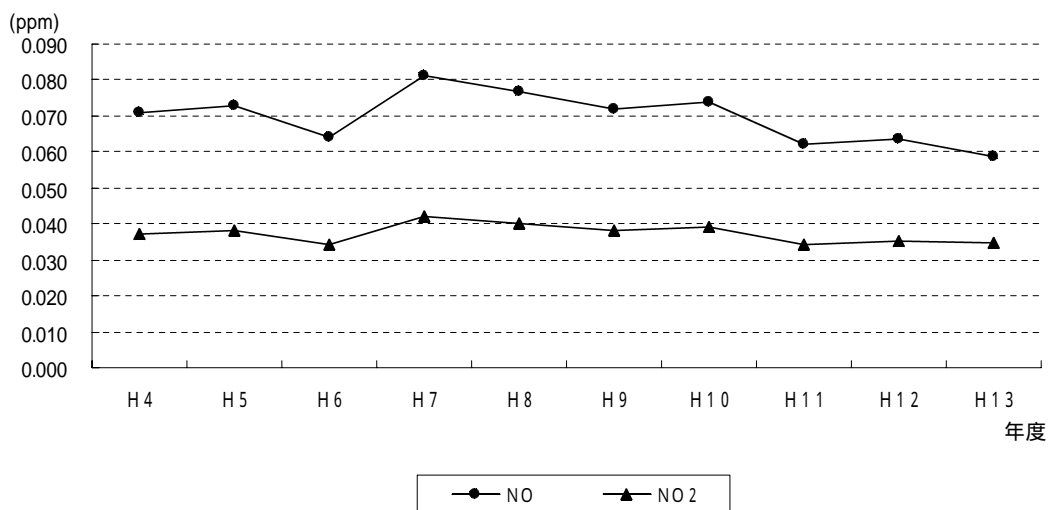


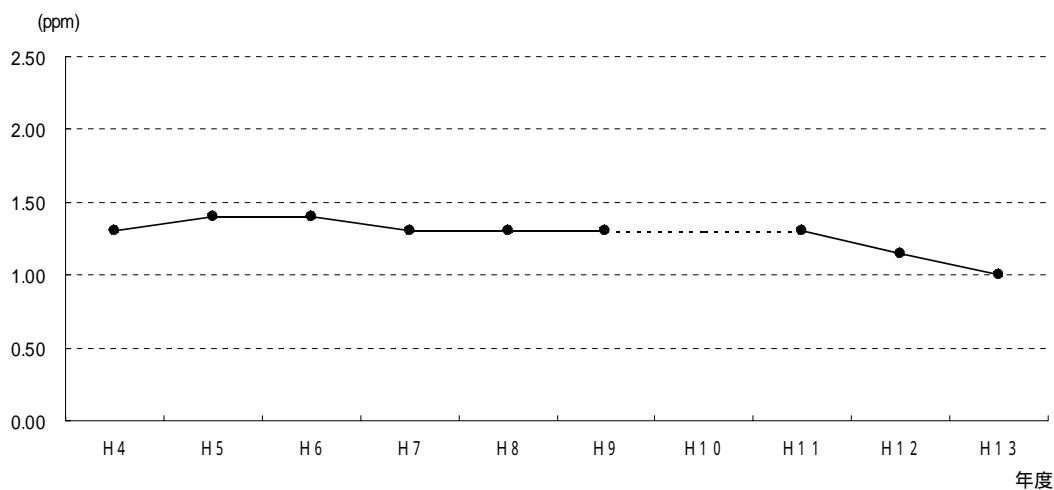
図1-3-14 窒素酸化物に係る年平均値の経年変化

(2) 一酸化炭素

平成12年度の年平均値は、中央測定局が1.0ppm、宮崎測定局が1.0ppmであった。

過去10年間の年平均値の経年変化を図1-3-15に示す(平成4年度～11年度は中央測定局の測定結果、12・13年度は2測定局の平均値)。

近年は、横ばいである。



(平成10年度は欠測)

図1-3-15 一酸化炭素に係る年平均値の経年変化

(3) 浮遊粒子状物質

平成13年度における年平均値を、昨年度とあわせて表1-3-18に示す。

	平成12年度	平成13年度
中央測定局	0.045	0.044
宮崎局	0.042	0.037

(平成10年度以前は未測定)

表1-3-18 浮遊粒子状物質の年平均値

(4) 非メタン炭化水素

平成13年度における年平均値(6～9時)は、中央測定局が0.27ppmC、宮崎測定局が0.32ppmCであった。

過去10年間の年平均値の経年変化を図1-3-16に示す(平成4年度～11年度は中央測定局の測定結果、12・13年度は2測定局の平均値)。

全体として減少気味の傾向にある。

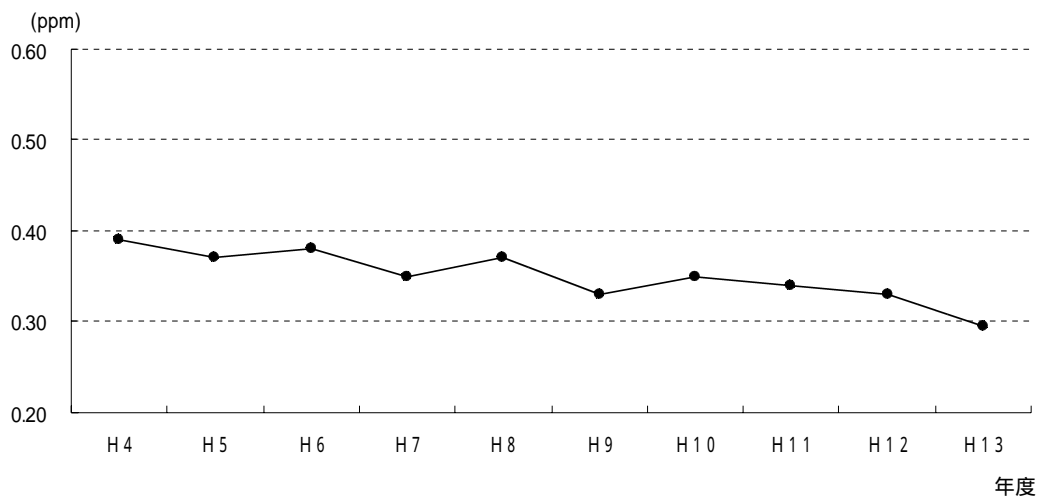


図1-3-16 非メタン炭化水素に係る年平均値(6～9時)の経年変化